

【所属名：企画課】

【会議名：第4回糸魚川市総合計画等審議会】

## 会 議 録

作成日 令和8年8月21日

|             |                                                                                                                                                                                                                |     |             |     |                  |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-------------|-----|------------------|
| 日           | 令和8年8月20日（木）                                                                                                                                                                                                   | 時間  | 15:30～17:20 | 場所  | 糸魚川市民会館3階<br>会議室 |
| 件<br>名      | ・審議事項<br>（1） 第4次総合計画基本計画について<br>（2） 第4次総合計画序論及び基本構想について<br>（3） 第3次国土利用計画（糸魚川市計画）の最終答申（案）について                                                                                                                   |     |             |     |                  |
| 出<br>席<br>者 | 【委員出席者 17人】<br>高瀬吉洋、嶋田友宏、富田一雄、田原克朗、下越幸二、梅田均、<br>片山和雄、富永範子、矢島好美、山本習子、星野貴博、山岸修、<br>久保田武、福島里子、原直樹、猪又直登、笠原幸江<br>【委員欠席者 6人】<br>古市正信、利根川賢、永江宏徳、龍見和弦、小田島修平、塚田ちひろ<br>【事務局出席者5人】<br>嶋田政策監<br>企画課（大西課長、卜部室長、小杉課長補佐、山崎主査） |     |             |     |                  |
|             | 傍聴者定員                                                                                                                                                                                                          | — 人 | 傍聴者数        | — 人 |                  |

### 会議要旨

#### 1 開会（13:30）

企画課大西課長により進行。

- ・当日配付資料の確認。

#### 2 会長あいさつ

#### 3 審議事項

- ・以降、糸魚川市総合計画等審議会条例第6条第1項の規定に従い、高瀬会長に議長をお願いし進行。

##### （1） 第4次総合計画基本計画について

- ・ 基本計画の修正（案）について
- ・ 分科会意見シートまとめ（基本計画素案）
- ・ 企画課 小杉課長補佐から、資料No.1-1と1-2に基づき説明。  
事務局（大西課長）から章別に進行。

#### 【質疑・意見】

##### 〔第1章 いきいき共生のまちづくり〕

（委員）

介護人材不足への対応についてですが、今後の事業所の介護サービスや建物が人材難で回りにくくなってきた場合、学校と同じように合併・統合していく計画はあるのでしょうか。

例えば病院をハブとして、そこに高齢者が通うための交通手段（ハブ的機能）を、市が一体的な計画として持っているのかどうかお聞きしたいです。医療と介護が 2000 年に制度上分かれてから一体化は難しい面もありますが、今は人材が少ないので、1 人 2 役こなすなどの効率化も含めて一体化を進めてもよいのではないかと考えています。

(事務局)

福祉事務所でも、各事業所が人材不足や経営難に直面していることは認識しており、将来的には事業所の統合なども考えられると思っています。

介護サービスを市民の皆様へ適切に届けるためには、ご指摘の通り「移動手段の確保」も合わせて考えていく必要があります。現在、基本計画の 30 ページ「バス等の利便性・効率性の向上と利用促進」に「高齢者や障害者の移動支援」として一部記載はありますが、今回いただいた「事業所の統合や交通ハブとの連動」というご意見を、どこまで計画に盛り込めるか、福祉事務所とも連携して検討させていただきます。

(委員)

5 ページ「地域福祉の充実」の施策指標にある「避難行動要支援者個別避難計画の整備」について質問です。現状 0 地区から、中間目標が 3 地区となっていますが、すでに具体的に話が進んでいる地区があるということでしょうか。

(事務局)

現在、要支援者の名簿は作成していますが、「誰が、誰を、どこに避難させるか」という具体的な個別避難計画の作成はなかなか進んでいないのが実情です。自主防災組織も日中は若い世代が仕事に出ていて人がいないなど、人材不足の課題があります。

ただ、昨今の地震や大雨の状況を見ると非常に重要な取り組みですので、まずは市としてどこかの地区で先行事例をしっかりと作り、そこから他地区へ広げていきたいという意図から、目標値を設定させていただきました。

## 〔第 2 章 つながる学び、つなぐ未来〕

(委員)

7 ページの「質の高い学校教育の推進」についてです。前回意見を申し上げた「学校が楽しいと答えた児童生徒の割合」を成果指標に加えていただき感謝いたします。

その上で、重点取り組みの「③ ふるさとのヒト、コト、モノから学ぶ郷土愛の醸成」について提案です。

計画全体の「目指す姿」に「未来を切り拓くこどもたちを育むまち」とありますので、単に郷土愛を育むだけでなく「地域の未来を担う人材を育てる」という表現まで踏み込むと、計画全体のつながりがより明確になると思います。例えば「ふるさとのヒト、コト、モノから学び地域の未来を担う人材の育成」といった表現へ変更することを検討してみてもいいでしょうか。

(事務局)

貴重なご提案をありがとうございます。関係課と検討し、より計画の文脈や市民の実感に沿った表現にブラッシュアップできるよう調整いたします。

(委員)

「こども」の表記をひらがな「こども」で統一したと説明があったが、「子ども一貫教育」などの箇所では修正がなされていない箇所があるので、再度確認してほしい。

※「子ども一貫教育」は制度名称のため、「子ども」で表記する。

(委員)

文字サイズがバラバラなので、統一して見やすくしてほしい。

(事務局)

冊子デザインで見やすいように工夫します。

(委員)

14 ページ「歴史・文化の継承と活用」に関連して提案です。

以前、市内で中村栄美子さんが「民話の紙芝居」活動をされていました。中村さんは亡くなられましたが、その紙芝居の録画データが能生のケーブルテレビに保存されているようです。せっかくデジタルデータとして残っているものですので、こどもたちが郷土愛を育み、地域の歴史を学ぶための教材として活用してみてもどうか。

(事務局)

そのデータについては私も承知しております。デジタルアーカイブの作品群の一つとして、こどもたちの教育等にうまく活用できるよう努めてまいります。

(委員)

今日、テレビで山梨県の自治体が「カプセルトイ（ガチャガチャ）」を使って、地域の思い出の品や歴史を伝える中身にして、こどもや大人が何度も回して楽しんでいる事例を見ました。

糸魚川でも、例えば青海の「竹のからかいの隈取りのカプセルトイ」や、能生の「白山社の陵王の舞カプセルトイ」などを駅や公共スペースに設置すれば、大人になってからも当時の思い出を振り返るきっかけや、地域の歴史を学ぶ良いツールになると思います。

(事務局)

現在、観光協会が主体となって地域のカプセルトイ（ガチャガチャ）を企画しており、今ちょうど第4弾までだったかと思いますが、進んでいるところです。今後は、お祭りや伝統文化といった切り口の中身についても、アイデアとして観光協会へ提案・共有させていただきます。

### 〔第3章 魅力と活力あるまちづくり〕

(委員)

18 ページ「農業振興」についてです。「③日本なし 新碧（しんみどり）」を入れていただき感謝します。

まだ市民の認知度も低い作物ですので、できればルビを振っていただけるとありがたいです。また、米についても、単に「米」と書くだけでなく「糸魚川産コシヒカリ」など、具体的なブランド名にしてはどうでしょうか。

加えて、学校給食における地場産野菜の活用について、こどもたちの理解を深める取り組みなども、計画のどこかに盛り込めると良いと思います。

(事務局)

地場産品の表記の具体化や、学校給食と連動した食育・理解促進の文言については、事務局にて再度記述を検討いたします。

(委員)

15 ページ「地域産業の活性化と新たな活力の創出」の指標について質問です。「従業者 1 人あたりの付加価値額」を新たに設定されていますが、これは市として実際にデータが算出可能なものなのでしょうか。

(事務局)

この指標は、市として「稼ぐ力」を明確にするために、設けたいと考えているものです。ただ、算出するにあたって、特定の対象業種に絞るのか、市全体を対象にするのかなど、実効性のある見せ方については担当部署でもまだ悩んでおり、引き続き調整を続けています。

(委員)

指標を出すのは難しいと思いますが、こうした高い目標に挑戦する風土を行政（庁内）に

作ることが大事だと思います。風土が変われば、行政が示す成果の出し方もガラリと変わるはずですので、ぜひ挑戦していただきたいです。

(事務局)

今回の指標はハードルが高いものも含めて見直しをかけておりますので、事務局としても諦めずに挑戦していきます。

(委員)

17 ページ「働きやすい環境づくりと産業を支える人材の確保」についてです。

「Ni-ful 認定企業数」が指標にありますが、人材確保において女性の活躍推進と同じくらい重要なのが「若者の流出防止と回帰」です。

例えば、兵庫県豊岡市では、18 歳や 22 歳で一度外に出た若者がどのくらい戻ってきたかを示す「若者回帰率」を独自に算出して、それを基に「どうすれば若者や女性が望む職場環境を作れるか」の検証をしています。こうした実効性のある指標へのアップデートを、もう一ひねり検討してみてはいかがでしょうか。

(事務局)

「若者の回帰率」については庁内でも必要性が議論されていましたが、具体的なデータ抽出の手法について悩んでいたところでした。ご紹介いただいた豊岡市の事例も参考にしながら、どのような見せ方や算出ができるか、関係各課と確認させていただきます。

(委員)

17 ページの指標にある「就職率」についてですが、これは何の就職率を指しているのか分かりにくいため、括弧書きなどの説明が必要ではないでしょうか。

(事務局)

これは「市内高校の新卒者のうち、市内に就職した人の割合（地元就職率）」を意図しています。おっしゃる通り、これだけでは伝わりにくいため、分かりやすい注記を追加するようにいたします。

(委員)

20 ページ「水産業の振興」の「②水産物の消費拡大」に SNS 等を活用した情報発信とありますが、これは同様に「農業」や「林業」の消費拡大項目にも記載して統一感を出したほうが良いのではないのでしょうか。

(事務局)

農林業でも SNS を活用したアプローチは同様に行えますので、各計画での記述の整合性を担当課に確認いたします。

#### 〔第 4 章 つながる力で育む地域の未来〕

(委員)

21 ページ「定住の促進」の取り組みについてです。

ポータルサイト「わたしのいと」は地域の魅力を伝えてはいますが、「仕事」ボタンを押すとハローワークのトップページに飛ぶだけになっています。これではハローワークを直接見ると変わりません。このサイトだからこそ見つかる仕事や、人とのつながりが見える仕組みにすべきです。

また、「地域の情報発信」というよりは、結婚、住宅、空き家、仕事まで、定住に必要な「ライフスタイル」がこのサイト 1 つで網羅されていると、移住後の生活がより具体的にイメージできると思います。「この街に住むこと」をトータルで捉えられるサイト構成に改善できないでしょうか。

(事務局)

ご指摘の通り、現状は仕事や子育て、住まいなどの情報サイトが、担当部署や運営主体が異なるためにバラバラに存在してしまっています。移住を検討する方にとって分かりやすい

よう、これらを統合的・横断的に紹介できるポータルサイトの構築が今後の大きな課題であると認識しています。

(委員)

委員の意見に補足です。糸魚川産業創造プラットフォームのホームページでは、実際、仕事に関する情報は「いとしごと」に掲載しています。私は以前から「私のいと」と「いとしごと」は連携すべきだと何度も提言しているのですが、運営組織の違いなどが原因なのか一向に連携されません。

参考にするべきなのは、山形県酒田市の「庄内仕事図鑑」のような、仕事と暮らしをワンセットにして成功している先進事例です。こうした明確なベンチマークがあるのですから、縦割りの壁を崩して解消に向けて進めていただきたい。

(事務局)

私も同様の連携が必要だと考えております。運営組織が異なるというハードルはありますが、今回の提言を踏まえ、改めて担当部署に申し伝えます。

(委員)

23 ページ「コミュニティセンターを核とした地域づくり」の「②コミュニティセンターの取組」の箇所ですが、「こども」という表記がひらがなではなく漢字（子ども）になっています。一応ご確認をお願いします。

(事務局)

修正いたします。

(委員)

ちょっと今更ながらの質問なのですが、地域おこし協力隊の配置人数についてです。人数を増やしていくにあたって、どれだけでも増やしてよいのでしょうか。何か制限などはありますか。

(事務局)

増やすことは可能なのですが、地域おこし協力隊は国からある程度特別交付税等の財源措置をいただける仕組みになっています。そこへの活動費や受入体制を考え、うまく活用・活性化できるのであれば、人数自体には制限はありません。ですから、財源の受け皿と受入体制さえ整えば、個人的にはたくさん来てもらった方がよいと思っています。

問題は、3年間の任期を終えた後、ここに「定着（移住）」してもらうためのアプローチです。3年活動すると卒業されますが、その卒業後の進路を事前に見据えて支援してあげないと、単に「3年間だけ活動してもらえればよい」というその場しのぎの配置になりかねません。こういったミッションを課すかが非常に重要で、そこを十分に検討しないと、3年間は生活（報酬）が保障されているものの、4年目からはそれがパタッとなくなり、結局は市外に出ていってしまふ。それではせっかく来ていただいた優秀な人材をまた外に流出させてしまうことになります。

(委員)

結局のところ、いくら手厚く支援しても、3年間の活動を通じて隊員自身が「ここで何とかがんばりたい」「ここに定着したい」と思えるような、地元の受入体制が必要です。

それと、もっと言えば隊員の母数（分母）が多い方が、お互いに情報交換やコミュニティの形成、経験値の共有ができるので、結果として定着率アップにプラスに働きます。たくさん来てもらった方が、受け入れる糸魚川市（地元）の側にも多様なノウハウや受け入れ体制が身につくため、良い効果をもたらすと思います。

(委員)

協力隊員ががんばったその先（任期終了後）に、糸魚川市内で持続して働けるような、地元企業との連携を意識したミッション設計が必要です。3年間がんばってもらって「はい、サヨウナラ」ではお互いにとって不幸ですので、任期後の就職や活動の場がなんとなく見据

えられるようなミッションづくりを意識してほしいです。

地元企業との関わりも重要なポイントです。「こういう優秀な人材がいるなら、うちの新しい部署に欲しかった」という企業もいるはずです。

(委員)

企業との関わりや連携の機会を、協力隊の事業計画の中にもっと組み込めると良いですね。「市内にこういう隊員が活動している」という情報が企業側に届いていれば、「彼らが卒業するなら、うちで新事業を一緒にやらないか」と声をかける企業も出てくるはずです。

(委員)

そうした人とのつながりが自然と生まれるような仕組みがあると、企業側にとっても、新卒採用とは異なる「即戦力に近い新しい人材（部署）」を迎え入れる良いきっかけになると思います。

(事務局)

これまで高校魅力化コーディネーターなど、任期終了後に市内で自立した事業を起こすのが難しいミッションだったこともあり、糸魚川の地域おこし協力隊の地元定着率は極めて低い（県下でも下位水準）というのが現状の大きな反省点です。

今後は、単に受け入れるだけでなく、地域おこし協力隊が「地域や地元企業と密接につながるミッション」を事前に設計し、3年後も市内で活躍できるような受け入れ体制の構築を検討課題として進めております。

## 〔第5章 くらし支える基盤と地域力〕

(委員)

31 ページ「快適な住環境の確保」の施策指標の箇所についてです。

「総人口に対する居住誘導区域の人口割合」ですが、現状値に対して、中間目標値、最終目標値がなぜか「下がって」記載されています。

次のページ（32 ページ）の同じ指標を見ると、現状が「31.4%」となっていますが、31 ページの表記は「34.1%」となっています。記載誤りではないでしょうか。

(事務局)

誤記ですので、修正いたします。

(委員)

この「居住誘導区域の人口割合」ですが、パーセンテージだけで表記されていると、現状が良いのか悪いのかが直感的にピンとこない部分があります。もしこれが「件数」や、具体的な「人数（人）」だとしたら、どのようになるのでしょうか。

この指標は、世帯数で出しているのか、それとも人数（人口）で出しているのか、どういった割合なのでしょう。

(事務局)

こちらは人数（人口）をベースに算出しております。人口にした場合、これから本格的な人口減少社会に入りますので、人数で目標を設定すると、全体の人口が減ることで自動的に目標を大きく下回るなど、実態と不整合が生じてしまいます。そのため、推移を正しく測るためにあえて「割合（%）」という指標で管理させていただいております。

## 〔第6章 健全な行財政運営〕

質疑なし

(会長)

事務局の進行ありがとうございました。次の審議に移ります。

## (2) 第4次総合計画序論及び基本構想について

- ・企画課小杉課長補佐から、資料No.2-1、2-2に基づき説明。

### ア 将来像について

(委員)

今回、中高生の意見を取り入れて『人の繋がり』を重視したフレーズを選んだのは、とても温かみがあって素晴らしい表現だと思います。

ただ1点気になったのは、その『繋がり』や『競争』が、市民コミュニティの内側だけで閉じてしまっているように見えることです。いまの時代背景を考えると、自分たちだけでなんとかしようと孤立して『井の中の蛙』になってしまつては、本当に困ったときに行き詰まってしまうます。ですから、地域「外」の人たちとの繋がりも持てるようなニュアンスをぜひ盛り込んでほしいです。

よく『海外に出て初めて日本の良さがわかる』とか『一度外に出た人が地元の良さを再発見する』と言いますよね。糸魚川市の人たちがこの人口減少社会の中で覚醒していくためにも、そういった『外の視点』を上手に取り込んでいくと良いんじゃないかなと思います。

(委員)

この「まちとともに生きる」という言葉についてですが、なんだか人口も減っているし、医療体制も厳しいけれど、もうこの街と生きるしかないという、少し諦めや終わりが近づいているような、寂しい印象を受けてしまいました。

そうではなくて、ここからもっと「未来を切り拓いていくんだ」という前向きな印象にできないでしょうか。それぞれの人の捉え方だと思いますが。

(事務局)

今回副題を設けたのは、このように大きな形で総合計画のフレーズを作りながらも、副題があれば市の他の色々な計画や、様々な事業にも活用できるのではないかと考えたからです。またイメージも膨らんでいくと思います。今現在は副題を考えながらも、どのように活用が図られるかはまさにこれからだと考えています。ですので、こういう風に使ったらどうかといった案があれば、ぜひ皆さんからご意見をいただきたいです。

(委員)

新潟県の中の他の市と繋がるとか、もうちょっとこの糸魚川市だけでまとまるんじゃないかと、そういう地域と繋がっていくっていうか、グローバルな社会性を育むような副題がいいかなと思いました。

(会長)

今出たご意見を参考に内容検討をお願いします。

### イ 第4次総合計画序論及び基本構想の修正案について

(委員)

資料の12ページの冒頭にある「既存事業の持続的な発展と地域産業の運営状況等」という言葉と、一番最後の方に出てくる「既存事業の持続的な発展と地域産業が伸びていく」という言葉が、ほとんど同じ内容で重複しているように見えます。

ほとんどダブっているように思うのですが、これはこういう作りで良いのでしょうか。

(事務局)

分かりにくくて本当にすみません、ご指摘ありがとうございます。この第3章ですが、元々は『産業分野』『雇用・人材確保育成』『観光』という3つの分野に分かれていました。しかし、やはり1次産業をはじめとして、2次産業3次産業全体で、トータルで取り組むべきだという話になり、産業労働課と観光課で内容を見直して、この節を一体的な取り組みとして統合したものです。

その見直しのプロセスのなかで、表現が重複して残ってしまったようなのでご指摘の通り修正させていただきます。

(委員)

今回の方針はかなり踏み込んだ内容になっていて、皆さんの覚悟がすごく伝わってきます。次に控えているパブリックコメントの際に、市民からは「具体的にいつ、何が減らされる(縮減される)のか?」とか、「単なる言葉遊びで終わらせるな」といった意見が必ず出てくると思います。

ですので、今回の掲げた方針に対して、なるべく具体的な期日と対策・方向性みたいなものだけは項目として作り、それに向かって中身を落とし込んでいくということが大事なかなと思います。

例えば、ゴミの有料化や、上下水道といった行政サービスのあり方などは、絶対に聞かれるポイントなので、そういった具体的な中身にどう落とし込んでおくかが絶対必要になってくると思います。

### (3) 第3次国土利用計画(糸魚川市計画)の最終答申(案)について

- ・企画課小杉課長補佐から、資料No.3に基づき説明。

(会長)

ご質問等、特に無いようですので、次第4 「その他」に移ります。

## 4 その他

### (1) 今後の予定について

- ・企画課山崎主査から説明。

(会長)

その他、委員の皆様から何かありますか。ある場合には、挙手のうえ、発言をお願いいたします。ほかになければ会議を閉じさせていただきます。

閉会のあいさつを嶋田副会長からお願いします。

## 5 閉会あいさつ(副会長)

以上